

廿九年五月十四日發受

主官 通商局



ハムチヨハハ子

鷄林將大軍團認可件

今回暴徒、雞ニ遭ヒ當港ニ引揚ケタル内地行商人一町大ニ感スル所アリ将来内地行商ノ安全ヲ保ツ為ノ別紙、如キ規約ヲ設ケ本官ノ認可ヲ請求候ニ付熟閱致候處内地行商人ハ可成一團體、下ニ運動ニ豫テ團員ノ所在ヲ明了ニシテ危険、恐レアル際ハ速ニ安全、地ニ招集シ危険ニ遭遇シテハ團員互ニ相扶ケ進退ヲ共ニスルヲ主眼トシ内地商業ノ觀察ヲ遂ケ行商間、通信、敏速ヲ助クルヲ附從、目的トスル等後、来内地行商ヲ安固ニ官廳ノ取締ヲ扶掖スル事、計カラス又内地行商ノ發達ニ對シ裨益スルヲ至

在仁川

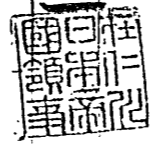
日本領事館

大ナル可キヲ信シ候ニ付認可致置候仍別紙

規約書一通相添へ此設申進候敬具

明治廿九年五月七日

領事館事務代理萩原守



外務省官原敬

27  
82



明治二十九年四月十二日

鷄林獎業團規約

鶴林獎業團規約書

趣意

我大日本帝國、朝鮮國、對スル未來遠大ニ通商貿易、  
 大目的ヲ達スベキ以所方法ハ之レ即チ最モ親愛ナル我友邦朝  
 鮮國ノ開港ト独立トノ最大目的ヲ完全ニ達スベキ以所方法ニ  
 テ其行路是モ背馳スル所ナキハ何人モ皆共ニ首肯スル所ナ  
 ルニシテ而シテ朝鮮國內一般ノ情況ヲ顧シ、年々必ズ暴民蜂  
 起、事アリテ我行商者ヲ艱、延テ朝鮮自國ノ蠱惑ヲ蟬  
 脱スル期ヲ寬フスルモノアリ矣現ニ一昨年東學党ノ亂、如  
 キ本年二月以來排日本の騷擾ノ如キ皆十是レ事体重クシテ  
 結果ノ大ナル故ニ特ニ内外人ノ注目ヲ惹起シタルハ論ナリ其  
 排外自尊ノ弊風ト強奪竊取ノ惡習トハ常ニ不悛、根蒂  
 ナ有ニ勤メスレハ機ヲ得テ暴發、極威ヲ逞フベシトス是豈我  
 國ノ商權ニ對スル一大障害ニシテ又々韓國未來ノ進運ニ對シテ  
 以鞏固ハ妨害ナラシマヤ今、時ニ於テ此一大障害ニ對スル豫防  
 策ヲ講セムニハ我國ノ商權地ニ墜々八道ノ妖雲終ニ散スル期アル  
 可ラス今回暴民ノ難ニ遭ヘルモノ茲ニ慨スル所ナリ同難相憐、情  
 ハ化シテ同心一致ノ團結トナリ熱心以テ本團ヲ組織シ銳意一番  
 前路ノ障壁ヲ排除シ愛ニ八道ノ荆棘ヲ闢テ吾人當初ノ素  
 志ヲ達セシム若シ夫レ本團ノ目的我商權ノ克復、韓國文化、





規約

第一章

総則

第一条

本團ハ鶴林製業ト称ス當今ノ内本都ヲ朝鮮國仁川港ニ  
置キ必用ニ應ヒテ其支節ヲ漸次内地樞要地ニ設ク

第二条

本團ハ商工及ヒ水産其他凡百ノ業務ヲ以テ内地ニ往來スルモノ  
ノ緩急相應ヒテ自ラ嚮リ我國ノ商權ヲ擴張スルト同時ニ  
朝鮮國內地ノ商工業及其他凡百ノ民業ヲ開發指導スル  
ト務ムルヲ以テ目的トス

第三条

本團ノ團員タルニト欲スルモノハ男女ニ論ナク本團ト趣ミ意  
目的ヲ同クシテ規約ヲ遵守スルコトヲ誓フ者ニ限ル

但入團シタル者ハ左ノ書式ニ隨ヒ誓書ヲ提出スル

何府縣何國何郡市町村大字番地身分

職業主又ハ誰何男女兄弟姉妹

何 誰

西曆年月日

一自分儀這般御團ニ加盟致シ候ニ付テハ御團ノ規約ヲ遵  
守スルハ勿論役員ノ指揮監督ニ決シテ違背致間敷候



依テ誓書書如件

右

明治 年 月 日

何

誰 印

鷓林獎業團長某殿

第四條

團員ニ別圖第一号式ノ團員章ヲ附與ス

但團員章ハ居席之ヲ携帶シ決シテ他人ニ貸與スルヲ許サズ

第五條

團本支部及ヒ大小區ニハ團員名簿ヲ備ヘ置キ部下團員

ヲ統轄スルニ便ニ供ス

第六條

本團ノ團員多クテト欲スルモノハ入團費トシテ入團ノ時金五拾錢

爾後毎月經常費トシテ金貳拾錢宛テ納付スルコト

第二章

區域及ビ役員

第七條

本團ハ本團ノ趣意目的ヲ達セシメガ為メ朝鮮ハ道ヲ分テ權  
リテ行業區劃ヲ定メ之ニテ名ヲ稱シテ統治ニ便ニ供ス

但實際ノ分區ハ實地ニ就テ徐々ニ之ヲ定ム

團本部

支部

本團、事務ヲ處理スルガ為メ、役員ヲ置ク

第八條

大區

小區

本部

團長 一人 副團長 一人

理事 若干名 會計 一人

書記 若干名

支部

部長 一人 副部長 一人

會計 一人 書記 若干名

大區

區長 一人 副區長 一人

會計 一人 書記 一人

小區

區長 一人 庶務員 一人

部長 若干名

第九條

各役員ノ職務權限ヲ如シ

本部

團長

一團長ハ本團ヲ統轄スルノ全權ヲ有シ本團盛衰安危ノ責ニ任ズ

二團長ハ毎本國政府及公使領事其他ノ外交官警察官等ノ意向ヲ知りテ本團ノ活動方針ヲ決定セザルニテ事務ハ同時ニ本團一切ノ業務及ニ其他ノ事務ト對シテ當局者ノ認問ヲ得ハ明カク之ニ答ルノ覺悟ヲ有ス

三不穩若クハ非常ノ事アリテ團員ノ性命財產ノ危害及ハントスルニ當リテハ正當防衛權ヲ實行スル場合ニ於テハ直ニ全團ノ司令者トアリ之ニ指揮ス

但シ本文ノ場合ニ於テハ一面直ニ領事警察官ニ具狀シテ保護ヲ求メ防衛ノ目的ヲ全フスルヲ計ル

副團長

一副團長ハ常ニ團長ヲ補佐シ團長事故アルニ由リ其任務ヲ行フ能ハルハ之ヲ代理ス

理事

二理事ハ正副團長ノ指揮ヲ受テ本團一切ノ庶務ヲ處理ス

會計

三會計ハ正副團長ノ指揮ヲ受テ本團一切ノ會計事務ヲ處理ス

67

書記

一書記、本部會計及び役員ノ指揮、從ヒ凡テ文書ヲ整理ス

支 部

支 部 長

一部長、團長ノ指揮監督ニ屬シ部下ヲ統轄シテ商工及水産其  
他凡テ本團ノ趣意目的ヲ成ル所ニ全力ヲ傾注シテ之ヲ獎勵シ  
以テ未來更ニ遠大ニ日韓通商貿易上ニ存スル最大目的ヲ達  
スルニ銳意注目シ其部一切ノ事務ヲ處行ス

二部長、毎ニ其部下全般ノ開カテ諸業務ノ盛衰利害ノ觀察ハ  
所ヲ擇ニテ之ヲ知悉シ時々團長ニ報告スルニ共ニ領事外交

官警警察官及ヒ其他法人ヨリ諮問アリテ當リテ明カニ之ヲ答フルヲ  
要ス

三部長、大區ヨリ收納シタル團費ヲ以テ其部正當ノ費用ヲ支  
辨シ残余金ノ決算ノ後ヲ報告書ト共ニ團本部ニ納附スルニ

四部長、非常ノ時ニ當リ正當防備權ヲ實行スルニ必用ヲ認メ  
タルキハ直ニ其部全体ノ司令者トナリ之ヲ指揮スルニ

但本天ノ場合ニ行テ直ニ其部ヲ團長ニ急報スルニ同時ニ領事  
館所在地ニ在テ領事警察官ニ具狀シテ其保護ヲ請フ  
手續ヲ為スル要ス

副 部 長

一 副部長、常務部長ヲ補依シテ諸務ヲ處理シ、部長事務アリテ其  
任務ヲ行フ能ハサルハ之ヲ代理ス

會計

一 會計部長、指揮監督ヲ受テ其部下一切會計事務ヲ  
處理ス

書記

一 書記、部長以下上席役員、指揮監督シ、其部一切文書ヲ  
處理ス

大 區

區長

一 區長、常務上席役員、指揮監督ヲ受テ其部下ヲ統理シ、區  
内一般業務ヲ獎勵シ、其區一切事務ヲ統理ス

二 區長、常務其所屬下僚ヲ諸報告ヲ受テ又自ラ視察シ、  
區内一般関係諸業務ノ盛衰利害ヲ推究シ、時々其意  
見ヲ所屬支部長ニ報告ス

三 區長、其區内ヨリ收納シタル團費ヲ以テ其區正當費用ヲ  
支辨シ、殘餘決算報告書ト共ニ所屬支部長ニ回送ス

四 區長、時々其區内人民ノ動靜及人心ノ傾向ヲ注目シ、禍  
害ヲ未雨ニ防ク、留意シ、若シ不穩ノ兆アリ、直ニ區内ニ赴  
キテ團員ヲ警戒シ、一面其狀況願テ其ニ所屬支部長

報告

五區長、非常急激、事変之際、穩便、處置能、團員、性命救済、係、難、事、認、事、ハ、直、其、區、全、体、司、令、者、ト、リ、便、宜、地、ヲ、探、テ、區、内、一、般、團、員、ヲ、召、集、シ、正、當、防、衛、機、ヲ、發、行、シ、テ、血、路、ヲ、開、キ、安、全、ノ、地、ヲ、據、リ、テ、適、宜、後、團、ヲ、為、ス、ン、シ、

副區長

一 副區長、毎、區、長、ヲ、補、佐、シ、テ、其、區、ノ、諸、務、ヲ、處、行、シ、  
二 區、長、事、故、マ、リ、テ、其、任、務、ヲ、行、フ、能、カ、ル、ハ、之、ヲ、代、行、ス、

會計

一 會計、正、副、區、長、ノ、指、揮、監、督、ヲ、受、テ、其、區、一、切、ノ、會、計、事、務、ヲ、處、理、ス、

書記

一 書記、所、屬、上、席、各、役、員、ノ、指、揮、ヲ、從、テ、其、區、一、切、ノ、文、書、ヲ、處、理、ス、

小區

區長

一 區長、所、屬、大、區、ノ、指、揮、監、督、ヲ、受、テ、其、部、下、ノ、指、揮、監、督、シ、テ、其、任、務、ヲ、處、行、ス、  
二 區長、所、屬、小、區、長、ノ、狀、報、ヲ、集、蒐、シ、其、意、見、ヲ、以、テ、上、級、

見附記ニテ所屬大區長ニ廻送スベシ

三 區長ニ各伍長ヨリ収納シタル團費ヲ以テ其區正當費用ヲ  
支辨シ残余ノ決算報告書ト共ニ毎月末所屬大區長ニ廻  
送スベシ

四 區長ニ其區内ノ不穩ヲ兆スルハ輕率ニ事ヲ誤ルナリ能ク其眞  
相ヲ觀察シ事体大ニ緩急ニ從テ部下ヲ警戒戒ニ一面之ガ  
實況顯著ヲ所屬大區長ニ急報スルニ若シ非常急激ノ  
事變ニシテ其區力到底部下ノ性命財產ヲ安全保護  
スルノ能ハスト思料シタルハ最モ神速ニ部下ノ全部ヲ召集シ  
非常ヲ戒メテ所屬大區長ニ引揚クニ然レハ危難愈々切

迫ニテ引退ノ途ヲ場合於テ部下ヲ指揮シテ正當防衛  
ヲ實行シ血路ヲ開テ安全ノ地ニ退却シ之レガ後屬ヲマシ

庶務員

一 庶務員ハ區員ヲ補助シテ其區一切ノ事務ヲ處理シ區  
長事故アリテ其任務ヲ行フ克ハルハ之レヲ代理ス

伍長

一 伍長ハ常ニ本團ノ趣意目的ヲ体シ區長以上諸役員ノ  
指揮監督ヲ受テ部下ニ對シテ自ら身ヲ以テ標準トナリ之ガ  
品行動作ヲ監視スルト共ニ其業務ヲ獎勵スルヲ務ムル  
二 伍長ハ每ニ其所在地ノ狀態ヲ諸項ヲ詳細ニ通曉シ



隨時之ニテ所屬區長ノ報告スルニ

一 所在部ノ戸数及人口並ニ貧富生活ノ度合

二人情風俗及ニ習慣並ニ男女遊嬉ノ模様

三 宗教及ニ神社佛閣並ニ祭禮諸儀式

四 地理水利及ニ名所舊跡並ニ運搬ノ便否

五 産物及ニ嗜好品並ニ農商工業ノ振合

六 物價及ニ運賃牛馬人足ノ日傭賃

七 外國商人關係ノ有無

八 善惡共ニ著名ノ人物

九 中央政權普及ノ度合及ニ兵事ノ現況

十 地方病及ニ衛生上ノ関スル事項

十一 山林田畑及ニ薪炭ノ多寡并ニ時々ノ價格

十二 家畜家畜

十三 地方人民時々ノ意向並ニ訛傳流言

十四 市日若クハ定期ノ人寄リ

三 伍長ハ毎月々始メ於テ團費ヲ徵集シ所屬小區長ニ納附ス

四 伍長ハ事変若クハ其他ノ事柄ニ於テ危険ノ恐シキアリト認

メタルハ先ツ能ク熟慮シテ輕躁事ヲ誤ハナク一意部下ノ

性命財産ヲ嚴守スル處分ヲ為シ一面直ニ其實況頭ホテ

所屬小區長ニ急報スベシ

五事若し急ぎに安全ヲ保じ難しト認めタルハ最速ニ部下ヲ護リ之ヲ引卒ニテ所屬小區長ノ下ニ至リ進退ヲ共ニスルノ責ニ缺カレ止ムヲ得ザルニ由テ正當防衛權ヲ實行シ前路ニ塞ガレテ障害ヲ攘フ外徒ラニ部下ノ性命ヲ賭スルガ如キ行為ヲ斷シテ之ヲ有レバカラス

第十條

役員ノ撰任及ビ任期ハ如シ

一 正副團長ハ團員ノ互撰ヲ以テ之ヲ推薦シ所轄領事ノ認可ヲ得テ之ヲ是レ

二 正副支部長ハ其部小區長以上任期ハ役員ノ互撰ヲ以テ之ヲ舉ゲ團長ヲ經由シ其部所屬領事ノ認可ヲ得テ之ヲ是レ

三 大區正副區長ハ其部ノ部長之ヲ推舉シ團長之ヲ認可シテ所屬領事ニ届出ツ

四 小區長ハ大區長ノ推薦ニ由リ支部長之ヲ認可シテ團長ニ届出ツ

五 團本部理事會計書記團長之ヲ專任シ支部會計書記支部長之ヲ專任シ大區會計書記大區長之ヲ專任シ大區長ハ支部長ヲ經由シ支部長ハ直ニ共ニ其撰任ヲ團長ニ届出ツ

六 庶務員任長ハ小區長之ヲ推薦シ大區長之ヲ定メ  
部長ヲ經由シテ團長ニ届出ツ

第十一條

正副團長及正副支部長ノ任期ハ滿三年トシ理事及大區  
長ハ共ニ滿二年トシ小區長庶務員任長ハ各滿一年トシ其他  
役員ノ任期トシ

第四章 團員

第十二條

團員ハ辰帝尤心得アルヲ要ス

一 克ク本團ノ趣意目的ヲ体シ任長以上諸役員ノ指

揮監督ヲ受ケ團員相互ノ親睦ヲ保チ其業務勉

勵スル勿論朝鮮人ニ接スル務ヲ温厚篤實ヲ旨トシ假

リニ粗暴過激ノ言動ヲ以テ自ラ事端ヲ開カザル事  
勤ヲ為スルナク一舉手一動用心慎重シテ我大日本帝

國臣民タルノ品位ヲ團員タルノ特色トシテ務ムルハヤシ  
二 一般團員ニ朝事アルニ當リテハ自己ノ性命財產ヲ  
正當ノ防衛スルニ足ルヲ我輩ヲ所持スルヲ要ス

三 前項ノ我輩ニ朝事アルニ當リテ危害具サシ身ノ迫リ  
避クハカガハル場合於テ役員ノ指揮ニ由リ正當防衛

權ヲ實行スルノ止ムヲ得ザルニ際シ始メテ護身ヲ為メ

終

使用スルモノニテ平常嬉戯ノ為ニ弄スヤキコトアズ珠ニ  
無事ノ目コト於テ之ニテ弄スルハ威信ヲ損シ輕侮ヲ招ク  
基ニシテ其害寧ニ全ク之ヲ所持セザルハ優ハ團員ハ  
常ニ克リ此ニ鑑ミテ之シガ平常ノ取扱ニ重キヲ置ク  
要ス

四 團員各自其所在地ニ於テ事変若クハ其他ノ事柄  
由リ危難ニ遭遇シタルハ輕躁事ヲ誤ルナク  
慮ニテ出来得ベキ限リハ必用ノ金銭物品ヲ推テ帶シ  
最寄リ 役員所在地ニ退却シテ身ヲ全フスル事ヲ  
計ルベシ

五 事若ク急ニシテ金銭物品ヲ取片付クルノ暇ナキ場合  
ハ之レニ應々シテ時機ヲ失スルナク單ニ武器ニテ推テ帶  
シテ役員所在地ニ馳セ付ク

六 自己ニテガハモ團員ノ危難ニ遭遇シタルヲ見聞シタルハ  
互ニ力ヲ尽シテ救護スヤシ若シ自己ノ力之レヲ救フ克ハズト  
認メタルハ神速ニ最寄リ役員ニ急報スベシ

七 一般團員ハ非常ノ場合ニ於テ役員ノ下シタル命令ニハ  
何等ノ理由ヲ以テスルモ反抗スルコトヲ得ス若シ此場合ニ於テ  
反抗スルコト於テハ役員ハ非常ニ最大權ヲ以テ臨機ノ  
處外ヲ行フヤシ

八一般團員所屬地ヲ離シテ他方ニ往來スルハ其都度  
必ズ順次本部ニ届出ツベシ

### 第五章 會議

#### 第十三條

本團ノ趣意目的タル通商貿易上ノ利害得失及ビ團  
員自衛ノ方法其他必要ノ案件ヲ討議スルガ為メ隨時  
會議ヲ開ク

#### 第十四條

前條ノ會議ヲ分テ尤ノ四種ト為ス

- 一 本部會
- 二 支部會

- 三 大區會
- 四 小區會

#### 第十五條

本部會ノ議員ハ各支部長各大區長及ビ任期ハ本部  
ノ役員ヲ以テ之ニ充テ團長自ラ議長トシ毎年二次時機  
ヲ計リテ本部ニ召集ス

#### 第十六條

支部會ハ其部下各大區長ヲ以テ議員トシ支部長自ラ議  
長トシ毎年四次時機ヲ計リ其支部ニ召集ス

#### 第十七條

大區會ハ其區内各小區長ヲ以テ議員トシ大區長自ラ議

長トナリ毎年六時時機ヲ計ラ大區長之ヲ其區ノ召集ス

第十八條

小區會ハ其區ノ伍長及ビ庶務員ヲ以テ議員トシ小區長自ラ議長トナリ毎月一次其區ノ召集ス

第六章 勸業

第十九條

本團ハ特ニ團員為メ勸業係ヲ設ケ希望ニ由テ尤ノ便宜ヲ與フ

但シ勸業係事務ハ團長若クハ特ニ團長ノ委任ヲ受ケタ  
ルモノ之レヲ擔任ス

一團員ニテノ商品ノ仕入若クハ賣捌ヲ擔セトスル者ハ片ハ魚子  
數科ニテ親切ニ其周施ヲ為ス

二團員ニテノ資本ナキ者ハ内地行商若クハ其他ノ業務ヲ營  
ム能ハズル者ノ對シテハ價格ニ拾円以内ノ商品ヲ仕入レテ之ヲ貸  
與スベシ

三前項ノ商品ヲ借リタス者ハ勸業係ノ指示ニ從ヒ証書ヲ以テ確  
實ニ約定ヲ為シ元金壹圓ニ付一月金三錢五厘ノ利子  
ヲ附シ毎月元金貳円五拾錢宛ヲ利子ト共ニ還納スベシ

四前項ノ商品ヲ借リタスモノ元金三分一ヲ返還シタリハ勸  
業係ハ其返還シタリ金額均シク商品ヲ更ニ該返還

者に貸與スルコトヲ得

第七章

通信

第二十條

本團内地ニ在ル團員為ニ本部及日本郵便局所在地支店  
差ク大區ニ通信係ヲ置キ左ノ方法ヲ以テ其取扱ヲ為ス

一 通信係ハ日本若クハ各地ヨリ來ル團員宛ニ郵便物ヲ領置

シ各團員所在地ニ郵便アル處ニ之ヲ配送スルノ手續ヲ為スベシ

二 日本郵便局 設ケル所ニ支店及ビ大區事務所ニ豫

メ投付函ヲ設ケ置キテ團員ノ郵便物ヲ領置シ之ニシテ郵便

發送ノ手續ヲ為スベシ

等ヲ準備シ置キ

但投付函所在地ノ支店及ビ大區ニ常ニ郵便切手及ビ端合

三 郵便物ノ到着シタキハ第貳號圖式ノ信号ヲ揚ゲテ團員

ニ知ラセラル

但二日ヲ限リトス

四 團員前項ノ信号ヲ見タキ各自往テ郵便物來否同フベシ

五 投付函所在地ノ支店及ビ大區員ニテ日本郵便局所在地ニ

往復スル片ハ其所屬役員ノ命ニ應ヒテ郵便物受渡シノ任

務ヲ行フノ義務アルコトス

六 團員ノ使置ノ為メ日本若クハ各地ノ郵便物授受ノ關係者

ト往復の信唇ノ封皮ハ尤、例ニ由テ認ムルコト

在朝鮮國仁川港(若クハ釜山)類(鶴林興業團本部又ハ支部)

何某殿 何誰

### 第八章 會計

團本部以下ノ會計事務ハ常ニ帳簿ニ由ラ之レガ出納ヲ明カク  
スラ要ス

#### 第二十二條

毎年度ノ終リ於テ大區ハ其區内小區ノ支部、其部内大區ハ  
會計収支決算報告表ヲ集蒐シ順次本部ニ報告スベシ

#### 第二十三條

團本部ハ毎年遅クハ二月中旬迄本團全般ノ會計決算  
報告表ヲ調製シ一般團員ニ報告スベシ

#### 第二十四條

現金總テ團長保管ノ責ニ任ズ

### 第九章 扶助

#### 第二十五條

本團ハ團員ノ疾病ニ罹リ若クハ死傷シタルハ尤、綱目及ビニカ  
法ニ從ヒ之ヲ扶助ス

一 瘵死若クハ病死シタル者ハ先ツ其遺骸ヲ収メテ之ヲ火葬シ  
其遺骨ヲ本部又ハ支部ノ領置ニ遺族ニ交付スベシ

18



續ヲ為ス

二前項ノ遺族ノ對シテ本部ニ於テ金ニ石円以内相當ノ扶助料ヲ  
給與ス

三員傷及ビ疾病ノ罹リタルモ其所属役員ニ於テ先ツ治療  
及ビ看護ノ手當ヲ為シ容易ニ恢復ノ見込キ片支部若  
クハ本部ニ送致スル

四不時ノ災害ノ遭遇シテ衣食ノ途ヲ失ヒタル者對テ所属  
役員ニ於テ一時衣食ニ差支キ迄ノ保護ヲ為シ務メテ  
其業務ノ復セシムル

### 第十章

#### 賞罰

#### 第二十六條

役員以下一般團員平時ト非常ノ際トニ論ナリ時ニ功勞アル者對  
シテ其功勞ノ存薄ニ由テ賞與ヲ行フ

#### 第二十七條

役員以下一般團員團規ニ背犯シ又ハ團員タルノ面目ヲ汚辱  
スルキ言行アリタル者其輕重ニ從テ之ヲ處分ス

#### 第二十八條

處分ニ譴責。奪任。除名トシ其所犯最モ重キモノハ領事  
ニ具狀シテ其處分カキ奏ス

#### 第二十九條

19

賞罰に都て役員、具状により團長之ヲ專行ス

但し小區以下（小區）對スル賞ハ通常場合四割、護責に限り  
支部長之ヲ專行スルヲ得

第拾一章 雜則

第三拾條

團長以下各役員ノ印章ヲ定ム即チ第三号圖式ノ如シ

第三十一條

非常場合ニ際シ團員ヲ指揮スルノ必要ニ由テ團旗部  
旗大小區旗ヲ定ム即チ第四号圖式ノ如シ

第三十二條

團旗部旗大小區旗ハ大祭祝日ヲ除クノ外部下團員ヲ  
召集指揮スルノ必要アルノ場合ニ於テ之ヲ掲出ル故ニ團  
員大祭祝日ニ非ラスニテ所屬旗ヲ見タル片ハ神速ニ其旗  
下ニ集合スベシ

第三拾三條

團員ニシテサ護身ノ武器ヲ所持セラル者ハ之ヲ貸與ス

第三拾四條

此規約各ハ實施ノ便否ニ由リ隨時改正増減スルコトアリ

第一号圖式

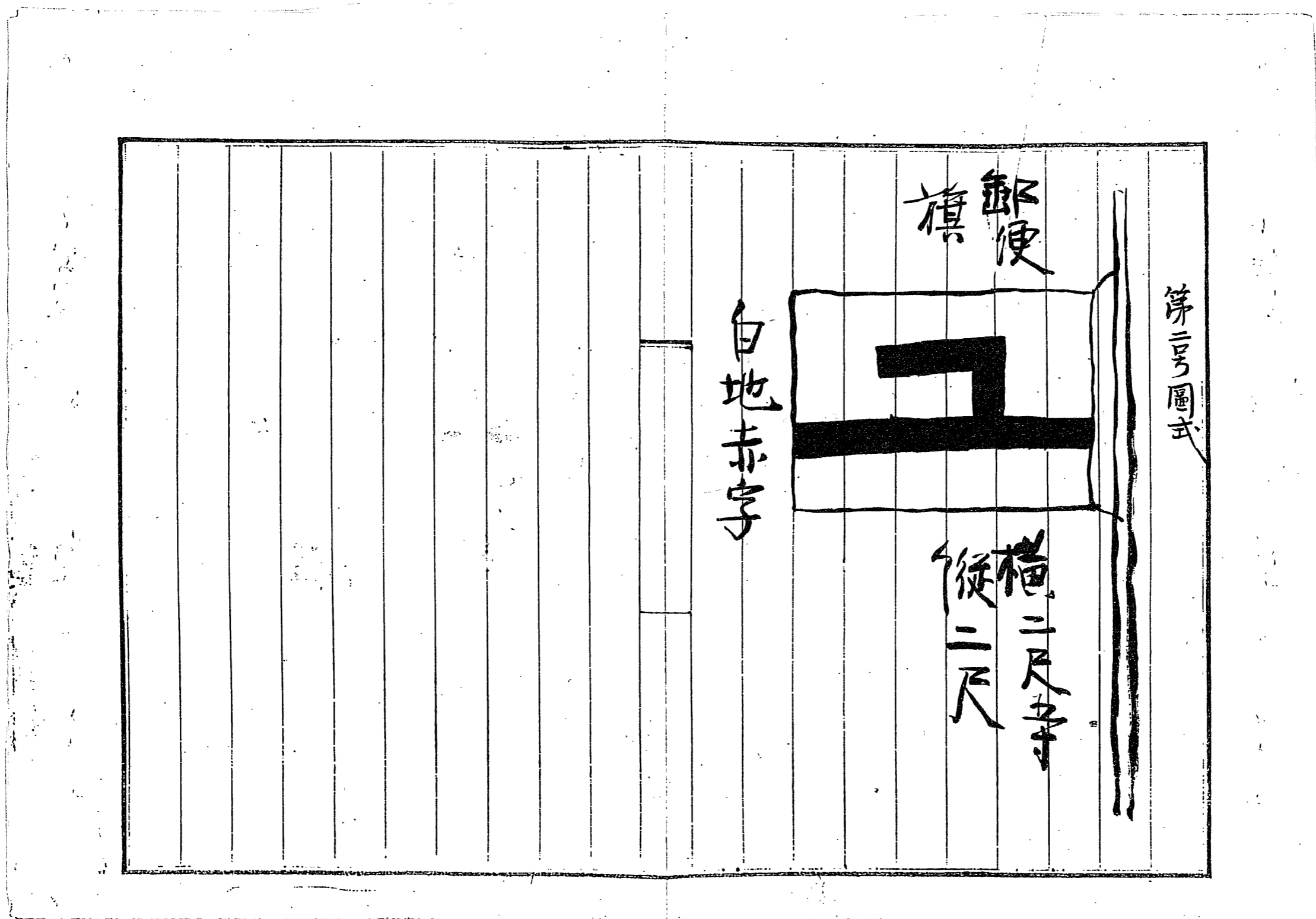
表 面

第何号	何某
鷲林谷集國寶章	明徳九年三月某附

第一号圖式

裏 面

鷲林谷集國寶章	明徳九年三月某附
人上月	白子山極元



第三号圖式

團木部印  
 鷄林獎  
 業團本  
 部之章

曲尺方寸

團長部印  
 鷄林獎  
 業團  
 長之印

曲尺方寸

團副長部印  
 鷄林獎  
 業團副  
 長之印

曲尺方寸

支部之印  
 鷄林獎業  
 團何支  
 部之印章

曲尺方寸

支部長部印  
 鷄林獎業  
 團何支  
 部長之印

曲尺方寸

支部副長部印  
 鷄林獎業  
 團何支  
 部副長之印

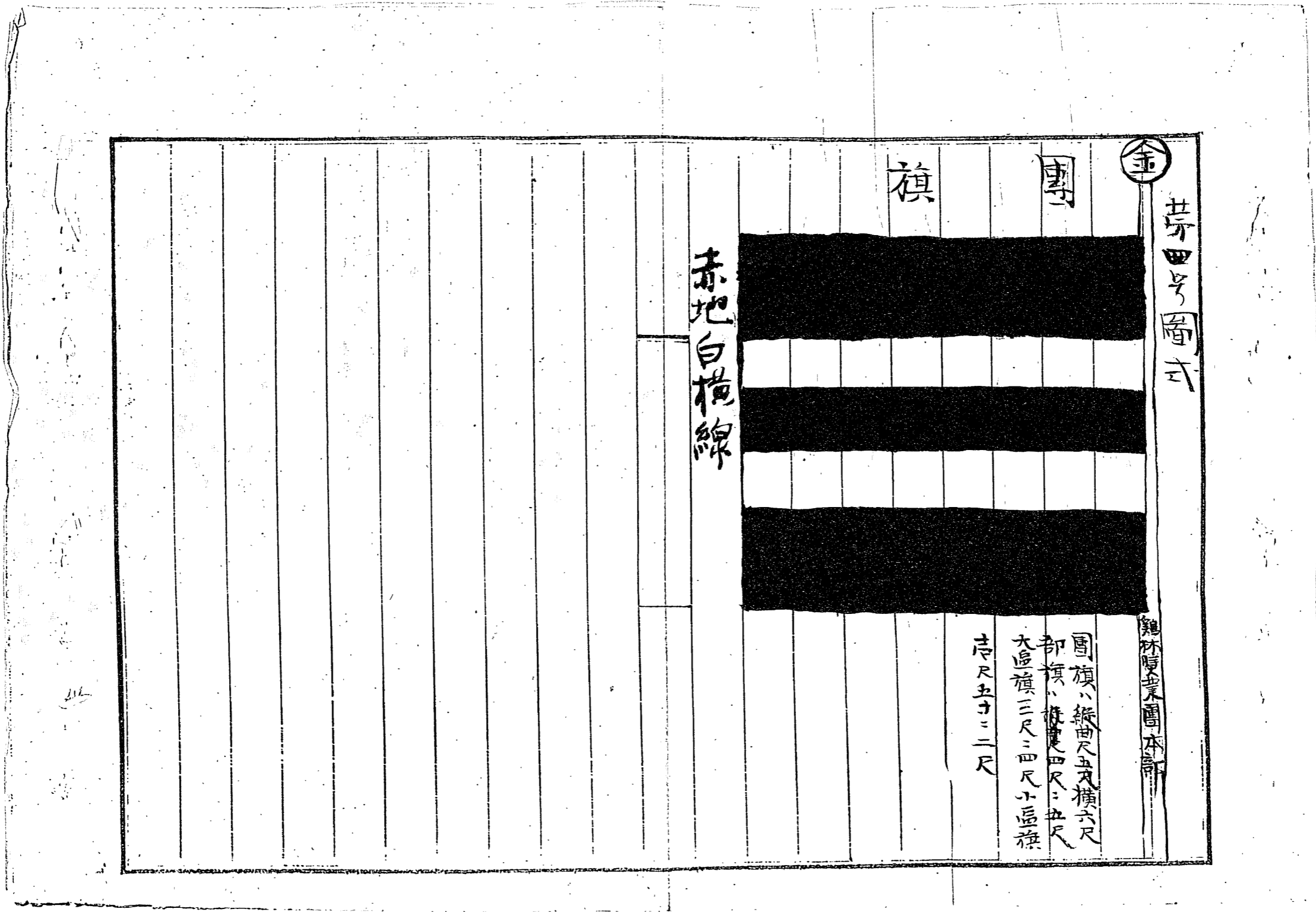
曲尺方寸

大區長部印  
 何支部  
 第一  
 大區長印

曲尺方寸

小區長部印  
 第一區  
 小區長印

曲尺方寸



廿九年六月三日接受 通商局

公第一〇五号

第五七七

本月七日附公第一八号ヲ以テ供費関英總  
林獎業園規約ノ儀ハ其後小村公使ノ注意  
ニ依リ別冊ノ通リ其要部ニ於テ修正ヲ行ヒ  
之矣ニ付茲ニ再ニ供費覽矣修正ノ概要ハ

一 旧第十二条 園負ニ於テ護身具ヲ携帶スル  
ノ項ヲ削除スル事

一 同条 園負心得ノ項中 特ニ條約ニ違反シ不  
正矣ノ行為ヲ無カラシムル等ノ文字ヲ明  
掲スル事

一 危險ニ遭遇シタル場合ニハ先以テ朝鮮政府  
地方官ノ救護ヲ俾キ且ツ敏速ニ最寄飲  
事終ニ後出口スル事

廿九年六月四日 朝鮮國仁川港

日本領事館

等ニ此座矣仍テ別冊修正規約書表添  
付候申進交敬具

明治廿九年五月廿二日

在仁川領事館事務代理

領事官補 三枝原守



外務比官原敬殿





規約

第一章

總則

第一條

本團ハ鷄林獎業團ト稱シ當分ノ内本部ヲ朝鮮國仁川港ニ置キ必要ニ應シテ其支部ヲ漸次内地樞要地ニ設ク

第二條

本團ハ高工及ヒ水産其他凡百ノ業務ヲ以テ内地ニ往來スル者ノ緩急相應シテ危難ヲ防キ我國ノ高權ヲ擴張スルト同時ニ朝鮮國內地ノ高工業及其他凡百ノ民業ヲ開發指導スルヲ務ムルヲ以

テ目的トス

第三條

本團ノ團員タラント欲スル者ハ男女ニ論ナク本團ト趣意目的ヲ同フシテ規約ヲ遵守スルヲ誓フ者ニ限ル

但入團シタル者ハ左ノ書式ニ從ヒ誓書ヲ呈出スベシ

誓書

何府縣何國何郡市町村大字番地  
身分職業業主又ハ誰何男女兄弟姉妹

何 誰

生年月

一自分儀這般御團ニ加盟致候ニ就テハ御團ノ規  
約ヲ遵守スルハ勿論役員ノ指揮監督ニハ決シテ  
違背致ス間敷候仍テ誓書如件

右

明治年月日

何誰印

鷄林獎業團長某殿

第 四 條

團員ニハ別圖第 一 號式ノ團員立草ヲ附與ス

但團員立草ハ居常之ヲ携帶シ決シテ他人ニ貸  
與スルヲ許サス

第 五 條

團員ニアラズシテ本團ノ趣意ヲ賛ムル言動若  
シハ金品ヲ以テ其隆盛ヲ裨補スル者ヲ賛成  
員ト為ス

但賛成員ノ規約ノ制裁ヲ受ケサルヲ以テ誓書  
ヲ出スヲ要セズ

第 六 條

賛成員ハ隨意本團大小ノ會議ニ列席シテ意  
見ヲ述ブルヲ得

但可否ノ教ニ入ルヲ得ズ

第 七 條

團本部及大小區ニ團員各簿ヲ備ヘ置キ部  
下團員ヲ統轄スルノ便ニ供ス

第ニ章 第八條

本團ノ團員タルラント欲スル者ハ入團費トシテ入團  
ノ時金五拾錢爾後毎月經常費トシテ金貳拾  
錢宛ヲ納附スベシ

但團員ノ家族ミシテ入團スル者ハ本條規定ノ  
費目五分ノ三ヲ減ス

第ニ章

區域及役員

第九條

本團ハ本團ノ趣意目的ヲ達センカ為メ朝鮮ハ

道ヲ分テ權リニ行業區劃ヲ定メ之ニ左ノ各稱ヲ  
附シテ統治ノ便ニ供ス

但實際ノ分區ハ實地ニ就テ徐々之ヲ定ムルモノ  
トシ其緒ニ就クニ至ルマテ姑ク便宜ノ方ニ從フ

團本部

支部

大區

小區

第十條

本團ノ事務ヲ處理スルカ為メ左ノ役員ヲ置ク

本部

團長	一人
副團長	一人
評議員	二十人
理事	若干名
會計	一人
書記	若干名
支部	
部長	一人
副部長	一人
評議員	十人
會計	一人
書記	若干名
大區	
區長	一人
副區長	一人
會計	一人
書記	一人
小區	
區長	一人
庶務員	一人
伍長	若干名

第十一條

4

各役員ノ職務權限左ノ如シ

本部

團長

一團長ハ本團ヲ統轄シ本團盛衰安危ノ責ニ任ス但團長ハ毎ク評議員ノ諮問ヲ經テ團務ヲ處理ス  
二不穩若クハ非常ノ事アリテ團員ノ性命財產ニ危害ノ及ハントスル場合ニ於テハ我領事館ニ急報シテ其保護ヲ請フベシ

副團長

一副團長ハ常ニ團長ヲ補佐シ團長欠位若クハ事故アリテ其任務ヲ行フ能ハサルハ團長ノ全權ヲ代行ス

評議員

一評議員ハ常ニ團務ヲ監査シテ其意見ヲ述ベ又々團長時々ノ諮問ニ答ヘ本部會ノ開期ニ在テハ其議員トナル

理事

一理事ハ正副團長ヲ指揮ヲ受ケ本團一切ノ庶務ヲ處理ス

會計

一會計ハ正副團長ヲ指揮ヲ受ケ本團一切ノ會計事務ヲ處理ス

書記

一書記ハ本部會計以上役員ノ指揮ニ従ヒ凡テ文書ヲ整理ス

支部

支部長

一支部長ハ團長ノ指揮監督ニ屬シ部下ヲ統轄シテ商工及ヒ水産其他凡テ本團ノ趣意目的トスル所ニ全カク傾注シ其部一切ノ事務ヲ履行ス  
ニ支部長ハ常ニ其部下全般ニ関スル諸業務ノ盛衰利害ノ數系ル所ヲ諳ネテ之ヲ知悉シ時々團長ニ報告ス可シ

三支部長ハ大區ヨリ收納シタル團費ヲ以テ其部正當ノ費目ヲ支辨シ殘餘金ハ決算ノ後々報告

書ト共ニ團本部ニ納附スヘシ

四支部長ハ非常ノ場合ニ於テハ直ニ朝鮮政府ノ當局地方官ニ申報シテ其保護ヲ請求スルト同時、領事館ニ具狀シ尋テ團長ニ報告スヘシ

副部長

一副部長ハ常ニ部長ヲ補助シ部長欠位若クハ事故アリテ其任務ヲ行フ能ハサル片ハ之ヲ代行ス

評議員

一評議員ハ常ニ事務ヲ監査シテ其意見ヲ述  
ベ又々部長ノ諮問ニ答ヘ支部會及ヒ本部會  
ノ開期ニ在テハ其議員トナル

會計

一會計ハ正副部長ノ指揮監督ヲ受ケ其部下一切  
ノ會計事務ヲ處理ス

書記

一書記ハ部長以下上席役員ノ指揮ニ從ヒ其部一切  
ノ文書ヲ處理ス

大區

區長

一區長ハ常ニ上席役員ノ指揮監督ヲ受ケ其部  
下ヲ統ヘテ區内一般ノ業務ヲ獎勵シ其區一切ノ  
事務ヲ統理ス

二區長ハ其區内ヨリ收納シタル團費ヲ以テ其區正  
當ノ費用ヲ支辨シ決算報告書ト共ニ所屬支部  
長ニ廻送スベシ

三區長ハ時々其區内人民ノ動靜及ヒ人心ノ傾向ヲ注  
目シ然テ禍害ヲ未萌ニ防クコトニ留意シ若シ不穩ノ  
兆アルハ直ニ區内ニ告知シテ團員ヲ警戒シ一面  
其狀況顛末ヲ具シテ所屬支部長ニ報告シ且  
朝鮮政府ノ地方官ニ保護ヲ請求スベシ

副區長

一 副區長ハ毎區長ヲ補佐シ區長事故アリテ任務ヲ行フヲ能ハサルハ之ヲ代理ス

會計

一 會計ハ正副區長、指揮監督ヲ受ケ其區一切、會計事務ヲ處理ス

書記

一 書記ハ所屬上席役員ノ指揮監督ヲ受ケ其區一切ノ文書ヲ整理ス

小區

區長

一 區長ハ所屬大區長、指揮監督ニ屬シ其部下ヲ指揮監督シテ業務ヲ獎勵シ其區一切ノ事務ヲ履行ス

二 區長ハ所屬伍長ヨリ情報ヲ集メ其意見アルモノハ意見ヲ附記シテ所屬大區長ニ廻送スベシ

三 區長ハ各伍長ヨリ收納シタル團費ヲ以テ其區正當ノ費目ヲ支辨シ殘餘金ハ決算報告書ト共ニ毎月末所屬大區長ニ廻送スベシ

四 區長ハ其區内ニ不穩ノ兆アルハ輕擧事ヲ誤ルナク能ク其真相ヲ觀察シ事体ノ大小緩急ニ從テ部下ヲ警戒シ一面之ヲ最寄朝鮮政府ノ當局地方



官ニ申報シテ保護ヲ請求スルト共ニ所屬大區長ニ急報スベシ

庶務員

一庶務員ハ區長ヲ補佐シ其區一切ノ庶務及ヒ會計事務ヲ處理シ區長事故アルハ之ヲ代理ス

伍長

一伍長ハ常ニ本團ノ趣意目的ヲ體シ區長以上諸役員ノ指揮監督ヲ受ケ部下ニ對シテハ自ラ身ヲ以テ標準トナリ之レカ品行動作ヲ監視スルト共ニ其業務ヲ獎勵スル丁ニ務ムベシ

二伍長ハ毎ニ其所在地ノ情報トシテ左ノ諸項ノ詳

細ニ通曉シ隨時之ヲ所屬區長ニ報告スベシ

一所在部落ノ戶數及ヒ人口ニ貧富生活ノ度合

二人情風俗及ヒ習慣ニ男女遊嬉ノ模様

三宗教及ヒ神社佛閣并ニ祭禮諸儀式

四地理水利及ヒ各所舊跡并ニ運搬ノ便否

五產物及ヒ嗜好品并ニ農商工藝ノ振合

六物價及ヒ運賃牛馬人足ノ日備賃

七外國商人關係ノ有無

八善惡共ニ地方著名ノ人物

九中央政權普及ノ度合及ヒ兵事ノ現況

十地方病及ヒ衛生上ノ関スル事項

土山林田畑及ニ薪炭ノ多寡ニ時々價格

土家禽畜蓄

土地方人民時々意向并ニ訛傳流言

土市日若ク定期ノ人寄リ

三伍長ハ毎月始メ於テ團費ヲ徵收シ所屬小區長

ニ納附スベシ

四伍長ハ事変若クハ其他ノ事柄ニ於テ危險ノ恐レ

アリト認メタルハ先ツ能ク熟慮シテ輕疎事ヲ誤

ルナク一意部下ノ生命財産ヲ嚴守スルノ處分

ヲ為シ其實況頭ホヲ所屬小區長ニ急報シテ指揮

ヲ請フベシ

第三章

役員ノ撰任及任期

第十二條

役員ノ撰任及任期ハ左ノ如シ

一 正副團長ハ一般團員ノ互撰ト為シ本部評議

員ハ本部所在地住居ノ團員中ヨリ撰舉シ當日

本部所在地現在ノ團員之ヲ公撰ス

二 正副支部長ハ其部下團員ノ互撰ヲ以テ各一

名ノ候補者ヲ定メ團長之ヲ任シ支部評議員

ハ其支部所在地住居ノ團員中ヨリ撰舉シ當日具

支部所在地現在ノ團員之ヲ公撰ス

三 正副大區長ハ其部部長ノ推舉ニ由リ團長之

ヲ任ス

但シ支部ノ設ケナキ場合ハ評議員會ノ諮問ヲ  
經テ團長之ヲ專任ス

四小區長ハ大區長ノ推擧ニ由リ支部長之ヲ任シ團  
長ニ届出ツ

但シ支部ノ設ケナキ場合ハ團長直ニ之ヲ任ス  
五理事及ヒ本部會計員ハ評議員會ノ諮問ヲ  
經テ團長之ヲ專任シ書記ハ團長直ニ之ヲ命ス

六支部會計員ハ支部評議員ノ諮問ヲ經テ支  
部長之ヲ專任シ團長ニ届ケ出ス

七支部書記ハ支部長之ヲ專任シ團長ニ届ケ出ツ

八大區會計書記ハ大區長ノ推擧ニ由リ支部長  
之ヲ命シ團長ニ届ケ出ツ

但シ支部ノ設ケナキ場合ハ團長直ニ之ヲ命ス  
九庶務員任長ハ小區長ノ推擧ニ由リ大區長ノ  
諮問ヲ經テ支部長之ヲ任シ團長ニ届ケ出ツ

但書前項ニ同シ

十投票ニ依ラスシテ任セラレタル役員ハ團長隨時之ヲ  
免ス

但シ支部長ハ大區正副長ヲ除ク外其部  
屬スル本文ノ役員ヲ免スルコトヲ得ルト共ニ

大區正副長ノ免任ヲ團長ニ申請スルヲ得

十一正副團長及支部正副部長并本支部評議  
員ノ姓名ハ領事館ニ届テ出ツ可シ

第十三條

正副團長及本支部評議員并正副支部長  
ノ任期ハ滿三年トシ本部會計理事及大區長ハ  
共ニ滿二年トシ小區長庶務員伍長ハ各滿一年ト  
シ其他ノ役員ハ任期ナシ

第十四章

團員

第十四條

團員ハ居常左ノ心得アルヲ要ス  
一 常に能ク本團ノ趣意目的ヲ体シ伍長以上諸

役員ノ指揮監督ヲ受ケ團員相互ノ親睦ヲ  
保テ其業務ニ勉勵スルハ勿論朝鮮人ニ接スル  
ニハ務メ温厚篤實ヲ旨トシ假リニモ粗暴過  
激ノ言動ヲ以テ自ラ事端ヲ開クカ如キ一與手  
一動用意慎重シテ條約ニ違及シ不正實員ノ行  
為アル無ク我カ大日本帝國臣民タルノ品位ト團  
員タルノ特色トヲ保ツルニ務ムベシ

二 團員各自身所在地ニ於テ事変若クハ其他ノ  
事柄ヨリ危難ニ遭遇シタル時ハ輕躁事ヲ誤ル  
ナク能ク場合ヲ熟慮シテ出来得ヘキ限リハ必  
要ノ金錢物品ヲ携帶シ最寄リ役員所在地

12

ニ退却シテ身ヲ全フスルコトヲ計ルベシ

三事若シ急ニシテ金錢物品ヲ取片附クルノ暇ナキ  
場合ハ之ニ戀々シテ時機ヲ失スルナク單ニ身ヲ  
以テ役員所在地ニ馳セ台クベシ

四團員ハ規約ニ規定シタル一定ノ團費及ヒ經常  
費ヲ除クノ外如何ナル場合、於テモ別ニ金錢上ノ  
責任ヲ有スルコトナシ

第五章 會議

第十五條

本團ノ趣意目的タルニ通高貿易上ノ利害其  
他必要ノ案件ヲ討議スルカ為メ、會議ヲ設ク

第十六條

前條ノ會議ヲ分テ左ノ六種ト為ス

本部會 同評議員會

支部會 同評議員會

大區會

小區會

第十七條

本部會ノ議員ハ本部評議員及ヒ各支部長  
各大區長并ニ任期アル本部ノ役員ヲ以テ之ニ充  
テ團長自ラ議長トナリ毎年二次時機ヲ計テ本  
部ニ召集ス



第十八條

支部會ハ其部ノ評議員及ヒ大區長ヲ以テ議  
員トナシ支部長自ラ議長トナリ毎年四次時機  
ヲ計テ其部ニ召集ホス

第十九條

評議員會ハ本支部共ニ其最重役員ノ諮問ヲ  
要スル場合又ハ本部ニ在テハ五名以上支部ニ在テハ  
三名以上ノ評議員連署シテ開會ヲ請求シタル  
場合於テ本支部共ニ其最重役員自ラ議長ト  
ナリ臨時之ヲ召集ホス

第二十條

大區會ハ書記ヲ除ク外其區ノ各役員及ヒ其  
区内各小區ノ區長伍長ヲ以テ議員トナシ大區長  
自ラ議長トナリ毎年六次時機ヲ計テ大區長  
之ヲ其區ニ召集ホス

第二十一條

小區會ハ其區ノ各役員及ヒ一般團員ヲ以テ議  
員トナシ區長自ラ議長トナリ毎月一次其區ニ  
召集ホス

第二十二條

本部會以下ノ會議ハ總テ指定ノ期限マテニ召  
集ニ應シタル議員ノ現在教ニテ開會スルヲ得

14



第六章

勸業

第二十三條

本團ハ特ニ團員ノ為ニ勸業係ヲ設ケ希望シ  
由リ左ノ便宜ヲ與フ

但シ勸業係ノ事務ハ團長若クハ特ニ團長

ノ委任ヲ受ケタルモノ之ヲ擔任ス

一團員ミレテ商品ノ仕入若クハ賣捌ヲ托セントスル

者アル片ハ無手数料ニテ親切ニ其周旋ヲ為ス

二團員ミレテ資本ナキカ為ニ内地行商若クハ其

他ノ業務ヲ營ム能ハサルモノニ對シテハ價格三拾円

以内ノ商品ヲ仕入レテ之ヲ貸與スベシ

三前項ノ商品ヲ借リタル者ハ勸業係ノ指示ニ從

ヒ証書ヲ以テ確實ナル約定ヲナシ元金壹圓

ニ付キ一ヶ月金三錢五厘ノ利子ヲ附シ毎月元金

貳円五拾錢宛ヲ利子ト共ニ還納スベシ

四前項ノ商品ヲ借リタルモノ元金三分ノ一ヲ返還シ

タル片ハ勸業係ハ其返還シタル金額ニ均シキ商

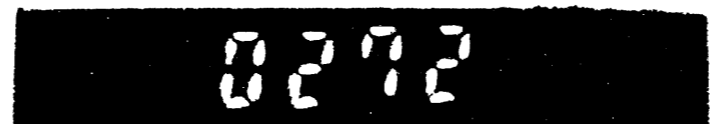
品ヲ更ニ談返還者ニ貸與スルヲ得

第七章

通信

第二十四條

本團ハ内地ニ在ル團員ノ為メ本部及ヒ日本郵便  
局所在地ノ支部若クハ大區ニ通信係ヲ置キ左ノ





方法ヲ以テ具取扱ヲ為ス

一 通信係ハ日本若クハ各地ヨリ来ル團員宛ノ郵便物ヲ領置シ各團員所在地ニ幸便アル毎之ヲ配送スルノ手續ヲ為スベシ

二 日本郵便局ノ設ケキ地ノ支部及ヒ大小區事務所ニ豫メ投書函ヲ設ケ置キテ團員ノ郵便物ヲ領置シ之ヲ煙ノミテ送ルノ手續ヲ為スベシ

但投書函所在地ノ支部及ヒ大小區ニ常ニ郵便切手端書等ヲ準備シ置クヘシ

三 郵便物到着シタルハ其ニ号圖式ノ信号旗ヲ掲ケテ團員ニ知ラセムベシ

但シ二日ヲ限リトス

四 團員前項ノ信号旗ヲ見タルハ各自往テ郵便物ノ来否ヲ問フベシ

五 投書函所在地ノ支部及ヒ大小區員ニシテ日本郵便局所在地ニ往復スルハ其所屬役員ノ命ニ應シテ郵便物受授ノ任務ヲ行フレ義務アルモノトス

六 團員ハ便宜ノ為メ日本若クハ各地ノ郵便物受授ノ關係アル者ト往復スル信書ノ封皮ハ左ノ例ニ由テ認ムベシ

「在朝鮮團員(若クハ釜山支隊)鷓鴣林營團本部」

16





「何某殿

何某

第八章

會計

第二十五條

團本部以下ノ會計事務ハ常々帳簿ニ由テ之カ  
出納ヲ明カニスルヲ要ス

第二十六條

毎年度ノ終リニ於テ大區ハ其區内小區ノ支部ハ  
其部内大區ノ會計収支決算報告表ヲ集蒐  
シ順次本部ノ報告スベシ

第二十七條

團本部ハ毎年遅クトモ二月中旬迄ニ本團全般ノ  
會計決算報告表ヲ調製シ一般團員ニ報告ス  
ベシ

第二十八條

現金ハ總ラ團長保管ノ責メニ任ス

第九章

扶助

第二十九條

本團ハ團員ノ疾病ニ罹リ若クハ死傷シタル時ハ尤  
細目及ヒ方法ニ從テ之ヲ扶助ス  
一 愛死若クハ病死シタル片ハ先ツ其遺骸ヲ収メテ  
之ヲ火葬シ其遺骨ヲ本部又ハ支部ニ廻送シ  
遺族ニ交付スルノ手續キヲ為スベシ

17



二前項ノ遺族ニ對シテハ本部ニ於テ金貳百圓以内  
相當ノ扶助料ヲ給與ス

三負傷及ヒ疾病ニ罹リタル者ハ其所屬役員ニ於テ  
先ツ治療及ヒ看護ノ手當ヲ為シ容易ク恢復  
ノ見込ナキ時ハ支部又ハ本部ニ送致スベシ

四不時ノ災害ニ遭遇シラ衣食ノ途ヲ失フタル者ニ對シ  
テハ所屬役員ニ於テ一時衣食ノ差支ナキ迄保護  
ヲ為シ務ムラ其業務ニ復サシムベシ

第十章 賞罰

第三十條

役員以下一般團員平時ト非常トニ論ナリ時ニ功  
勞アル者ニ對シテハ其功勞ノ厚薄ニ由ラ賞與ヲ  
行フ

第三十一條

役員以下一般團員平時ト非常トニ論ナリ團規  
ニ背犯シ又ハ團員タルノ面目ヲ汚辱スルキ言行  
アリタルハ其輕重ニ從テ之ヲ處分ス

第三十二條

處分ハ護責ヲ奪任除名トシ其所犯最モ重キモノ  
ハ領事ニ具狀シテ其處分ニ委ス

第三十三條

賞罰ニ都テ役員ノ具狀ニ由リ團長之ヲ處行ス

14

但小區長以下ノ對スル賞ノ通常ノ場合罰ノ  
責ノ限リ支部長之ヲ專行スルヲ得

第十一章

雜則

第三十四條

團長以下各役員ノ印章ヲ是レ即チ第三号圖  
式ノ如シ

第三十五條

團旗部旗及大小區旗ヲ是レ即チ第四号圖式  
如シ

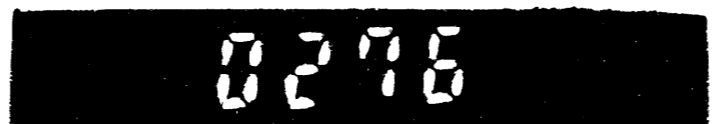
第三十六條

團旗部旗及大小區旗ハ大祭若クハ祝日ヲ除クノ外  
團員ヲ召集指揮スルノ必要アル場合ニ於テノ之  
ヲ掲出ス故ニ團員ハ大祭祝日ニアラズニテ所屬  
旗ヲ見タル所ニ神速其旗下ニ集合スベシ

第三十七條

此規約書ノ實施ノ便否ニ由リ隨時改正増減ス  
ルヲアルベシ

252784





廿九年十一月廿六日接受 主審通商局

公第三〇八号

受第二三〇八号

鶏林奨業團本邦派遣委員上京ノ件

鶏林奨業團ハ當國內地へ行商スル本邦商人ヲ  
保護誘導シ我高權ヲ擴張スル目的ヲ以テ本  
年四月仁川ニ興リ今八月ニ至リテ當港亦其  
支部ヲ設立シ尔来漸次其業務ヲ進メ既ニ今  
日ニ至リテハ多ク視ルヘキノ効果ヲ収メ當港支部  
ノミニテモ團員ノ數百八十五名ニ達シ候ノミナラズ團  
員中内地へ行商中ノ者モ尠ナカラズ事業ノ性質上  
將來頗ル有望ノモノト被存候ニ付當館ニ於テモ  
奨勵ノ為相宜ノ便宜ヲ与ヘ居候次第ニ有之候  
知今因該團基本金募集ノ為メ當港支部長  
宮本羅光者仁川京城元山等ノ派出員共一兩日  
中官儀出立上京可致候間為由矣考該段申  
進候敬具

明治廿九年十一月廿六日

在在

一等領事何集院為志



外務次官小村壽太郎殿

27  
32



慶尚道視察錄

鷄林獎業團

釜山支部

慶尚道視察録

本夏カ金山ヲ奉シテ旅途ニ上リ、明治廿一年五月十四日シテ  
龜浦金海昌原咸安晉州宜寧等處凡大阜新  
空テ永川慶州蔚山等處テ明治廿二年一月八日辰  
ニ其間津浦日教路トテ二日ヲ費セシメテ今西ノ旅ヲ  
ハ韓國內地一般ニ豐作トシテ此出テ為ル時朝露降レ穢  
キ出テ無クシテ我日韓貿易上ノ影響音ヲ及ボス事ナリ  
ナリトバ即チ之ヲ確メテ欲シ郡治所近ノ井深ヲ直ニ  
其視察ニ二箇條ヲ大ニ招クルモノナリ

鷄林獎勵業團

釜山支部

未教出荷ノ教示原因

韓國內地未作ノ豐收ニ付テハ不輸出ヲモテトノ想像ハ今ヤ相違ヒテ  
秋季ニ至ルニ迄意外出荷ノ事現狀トナリ其原因ニ之ヲ農  
事ノ遅延ニ付テハ防教令ノ下リテ或ハ降雨ナキ事ヲ以テ水賦量  
水利ノ便ヲ得テハ老説終ニトシテ決セズ本夏カ今則視察ニ於テ  
ニヨル其防教令ニ至ル事莫無根ノ凡説ニモ水利ノ便ヲ得  
テ依ルハキキコアラカレシ本年ハ一俸六月下旬ヨリ降雨至テ稀  
ク降雨アラス大雷雨量至テテテテテテテテテテテテテテ  
テテ南北雨トシテ水賦量ヲ減シテ極少トナリ大船ハ勿論トシテ  
無直セシ能ハカレ所ナリ水利ノ便ヲ得テ未教ノ事ヲ教ヲ運送





大邱地方宜寧地方ノ如キ殊ニ此ノ地ニ其ノ何ノ使ニ其  
 不悔得ニ依リテ運送し得ル見原金海咸安晋州ノ如キニ於テ之  
 ヲ見ハ其ノ必不其未衰ノ出テテ亦ハ其ノ幸實ハ之ニ及シ  
 テ出テ至テテ教ナリ必不其何ノ使ニ依リテモナリト想見スル  
 可得ベシ稻秋ノ時ヨリ豊凶ニ互ニ慮テテテテテテテテテテ  
 二方ノ豊作ヲ見テ如斯出テテテテテテテテテテテテテテ  
 時果臝ニハ大ニ居る高民ニ利益ヲ世ハテテテテテテテテ  
 ハ盛ニ韓地ニ入り競テ買出テテテテテテテテテテテテテテ  
 至ラニ此ニ買テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
 意外ノ早臝ヲ見テハ豊民ハ好期ヲスルテテテテテテテテテテ

鶏林獎勵業團

釜山支部

各自供給米ヲ採シ他ニ皆賣リ排ヒテテテテテテテテテテテ  
 是ニ其期ノ市場ノ影響ヲ及ボシテテテテテテテテテテテ  
 モナリテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
 給米ニ困シテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
 此ニ其期ヲ待テテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
 場ハ其出テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
 稻作ノ收熟期ニ至リテテテテテテテテテテテテテテテテ  
 高價ヲ呈シテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
 其作柄ハ豊作ヲテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
 及ハカリテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

其價格も低廉を以てハ各郡邑一般に倍増する所然し其  
農民ハ之を以て其金高に於て充分の所得あり故自然金銀  
不能通う感あり一一般に富強の身となり此出米秋  
至上農民作役の割合は出米の數より折角價格も低廉  
なり其故に米の氣味も厚し居る郡邑人民の老嫗も  
米飽し居る事必以て其米價も低廉なるを能ハガリナリ  
歴々本邦米價如何に本年豊作の見込相違を昨年不作  
と爲す外國米の輸入の便宜ハ一石以上高きと其結果  
米市ノ暴落ヲ見ルに至リ平常の價格より買出ラズモ大  
利ヲ見ル韓國米之於て轉地ノ相場ハ割合ニ高價ヲ觀ル  
居ルに於て居る米商人の買出ラズモ其以合ハガリヨリ積めしき  
買出ラズ亦轉高民ノ積之熟し年々之が買出ラズモ  
亦は燒之之が取リキリナリ免之角本邦高民ノ買出  
相場ト韓國内地相場ト不釣合ヨリ日轉米商人ノ買出し  
積めしカキハ結果終に輸出米數少敷トナリタナリ  
又之が因トモトキキキ米ノ相場ト大豆ノ相場ト其均  
衡ヲ有セガリナリ是米本邦居る高民ノ韓國内地ニ於て米  
豆買出ノ事ヲ聞ク米ノ相場ヲ十分トスバ大豆ハ漸ク其五  
分ニ居ルモノト見ル本邦ノ米ハ大豆作役ノ不作ナリト非  
常ノ高價ヲ觀ル米價ノ最トモ高貴ナルニ對シ然トハ分

鶏林獎勵業團

釜山支部

或ハ九令ニ位スルリ故ニ韓民ノ叛忍テ其相場ノ変遷アルニ  
 着目セズ而シテ其高賣上景収如何ニ申リテ各物價ノ相場ニ異  
 動ヲ生ズルモノモ解得セズテ故トシテ自該ヨリ其株スロリ本年  
 釜山港日本居地面米價ノ下落トスルニ快ク日本國米價ノ権衡  
 ヲ有ラズスルニヤ居而官民ノ向ニ成之テ此豊作ヲ見止ニ韓  
 民ノ糶賣セシムル手段ナリフハ豊作ナリハ大巨獨リ高價ニシ  
 テ豊作ナル米價ハ尙廉ナルニアラスヤ今暫ク之ヲ貯蓄シ一切  
 出資セカニ祈テハ申シテ其相場騰貴スルベシト唱アルモアリノ自  
 國ノ他ニ米價出資ナド唱アル韓地ニ取リテ亦無理ナラス言ハカ  
 故ニ此ハ本ヨリ米穀ノ僅クナリトシテ原因其ナリヤアルヤ事

鶏林獎勵業團

釜山支部

實ナリ要スニ唯本邦相場ノ暴落ハ韓國內地相場ト其  
 約合ラ係々ナルヲ茲ニ各地定期ノ市場ニテ賣買セル  
 米價相場ヲ圖キ得ルハ揚ケテテ先考ニ供ラス

各地相場比較表

地名	品目	價格
龜浦	白米一升	四十六文
	玄米一升	三十三文
	大豆一升	二十一文
釜山	白米一升	四十五文



吉	凡	大豆	一	斤	三十二文
大	卯	白米	一	斤	四十二文
全		吉米	一	斤	二十二文
全		大豆	一	斤	二十三文
新	字	白米	一	斤	四十二文
〃		吉米	一	斤	二十五文
〃		大豆	一	斤	二十三文
鶏林獎業團 釜山支部					
永	川	白米	一	斤	三十九文
全		吉米	一	斤	三十二文
全		大豆	一	斤	二十四文
慶	州	白米	一	斤	四十文
全		吉米	一	斤	三十二文
全		大豆	一	斤	二十四文
蔚	山	白米	一	斤	四十文
全		吉米	一	斤	二十二文

蘇山 大正五 二十五文

右表に依りて見れば各地通して其米價ノ高きナルヲ知ラズ  
 然リテ後手韓人向ニ如斯ク高價ヲ取ハシ居ルニモ拘ハラ  
 ズ相互ニ互リテ見ル各郡邑定期市場トモ米穀出  
 荷ノ多キ止ラ得ザルニ原因ニト爲レ本委令カ其富裕ナリテ  
 想見スニ是レ本邦居留米商韓國米商人共年米賣期  
 期ニ降シテ亦モ吾州大市大印大市ノ開クルニ當リハ例年仲不  
 米穀出荷ノ多キ見ルモノ本邦米商亦仲不米穀出荷ノ多  
 キヲ見ルニモト想像セシモノ吾州大市大印大市ノ開クルニ當  
 市ハ已ニ其終期ヲ告ケ大印大市ノ最中頃ヲ経過  
 鶏林獎勵業團 釜山支部  
 右ニ却テ見ルニ以テ賣惜ムク益々著シク及シ大市ノ見景  
 況ハ昨年より一層盛大ニ且ニ其買出品手至テ又ト多ク美  
 隆本員が日撃キタル大印市場ニ於テ其買出ノ爲メ人馬有  
 ニ依リテ韓米ノ推シ進スルヲ 勢も亦一年中必需品ヲ買求スル  
 此大市ニ於テ其米價ニ変動ナシト見レバ此處ニ三月月ノ向ハ到  
 應持ルキ米穀ノ出荷ヲ見ルニ不ト云フアリ加之ナラ農  
 民向ニ近來續テ三年ノ盛作ヲ見タムナレバ米年ハ或ハ  
 凶作ヲ見ルニモト本委令目下向テ今日ニ至ル迄ノ天候ヲ以テ考  
 へテ見ルニ今更ニ其用事ヲセカレバ故ニ米穀出荷ノ多キヲ  
 見ル本邦相場ノ騰貴スル免カト云フ若シ此ラセバ米年更作



結果ヨ見ル後ニアモ四月五年四月ノ頃ナル也

果收一斑

日韓貿易上第一輸出重要品米作收ニ就テハ日韓民  
 共ニ其種秩ノ時ヨリ收熟期ノ差違凡米或ハ虫害或ハ旱  
 害或ハ水害其他ノ尤テ結果如何トハ憂慮セラルモナリキ然レ  
 本年ハ米ノ春来ヨリ天候順ヨリ得テ其種莖期ヲ安心タス  
 潤雨若リ環リ水量潤澤ノ用水ノ欠乏セリナリ其養育充  
 分ニ至リ加ヘ凡虫害ノ慮ヲテ家ヲ并リテ半年ノ比シ四  
 割方ノ増額ヲ見タト云フ然レニ洛東ハ冬及蔚山本部其他  
 ニテ部ノ於テ梅雨ノ候而量ヨリ為メ河水氾濫作隘シ  
 堤防破壊ノ為メ大害ヲ受テ坪教院トテ五ノ坪余ノ田地ヲ  
 荒蕪ニ屬セメキ然リトモ韓人ノ之善ヲ損害ハ快シテ甚  
 慮ス事モマズ而量ノ為メ損所アル米作上却テ害ヲバト  
 美処ニ豊作ナル歡聲ヲ聞カハルナシ

大正作其格合ノ時期ヨリ降雨ヨリ為メ河水氾濫作隘  
 ニ洛東ハ冬其他流域ノ迄ヒテ部分ハ浸水ノ為メ種莖  
 腐爛ヲ再播ヲ為セシメアリタモテ必ク不作ヲ見ハナシトハ  
 古時豫期ナリナリキ果セハ七月下旬ヨリ天気快晴ニ  
 テ已ニ收熟期ニ至リ降雨ヨリ稀ナリカ一成長スル時

鶏林獎勵業團

釜山支部



三於テ如斯降雨アキリシカハ五播ヲ施シタルハ充令ノ成長ヲナス能ハ  
 ズ幹葉ノ矮小ニ地ハ益乾燥テ地下ヨリ水ヲ吸收スルサ  
 カリテテ其実入り悪シク莢角ニ粒粒ニ粒ヲ生シテ外ノ不  
 結果ヲ見タリトテ其ト馬氏大内ノアナル云々其後水ノ古管又ナ  
 キ新管ノ水川慶州蔚山地方ニ於テ之ヲ開クニ梅雨ノ候  
 降雨ヨリテ却テ幹葉ヲ成長セシメタリ夫レヨリ收穫期ニ至ル  
 迄亦今ノ早集ハ免カシカト馬氏其程長リモ可ナリ大キリ充令  
 ノ獲得ハ之ナカリモ手作ニ比シハ今五割ノ作收ヲ得タリト云フ

各地貨幣ノ流通

本島が今西込泰と各地一於テ貨幣ノ一般ノ流通セハハ

鷄林獎勵業團

釜山支部

其韓人ニト外國人トトテ向ハ不極和善的ニ文録ヲ謂韓人  
 ナリス韓國ノ貨幣ヒテ我日本ニテ鑄造セハ銀貨及銅貨  
 ノ如キ其向々之ノアリト馬氏其教里テサナリ而カモ却テ嫌フモアリ  
 此七氏亦貨幣ハ其銀貨タル紙幣タルトテ向ハ不極和善  
 ノ官吏的或ハ韓人日本ノ向屋ヲ主メテ流通セハチアリ之ノ流通  
 不之者テ平準二十割公是相場ヲ降シテ交換スト馬氏其未  
 辰各地韓人相場異様ニ多クテ其相場ノ比較ヲ取リ紙幣  
 ヲ以テ韓人ノ交換スルモノ五百三十文韓人ヲ以テ紙幣ト交換  
 セルハ四百二十文ノ割合ナリ韓人相場ノ下底ヨリ其韓人  
 向ニ於テ我々が貨幣ノ尊重スルヲ知ハシ而シテ銀貨ハ其分ナシ



附記云テ紙幣ヲ嗜好スルヲ以テ此不審ナル交換法即チ一時ノ者ニテ決シテ持續スベキニアルト爲モ我債幣ノ流通セリト向後ト爲モ其セリト故ニ本邦行商者々々モ不便ヲ轉テ推入運賃ノヨリキヲ要スル場合アルガ如キ即チ我債幣ヲ推入其地ニ流シテ交換ナストモ敢テ不都合ナカハバシ

各地ノ情況

各郡邑其地ノ情況ハ本員ガ累ニ報セシ所ト大同ヤ異ニシテ今回トテ更ニ變遷アルトモ其概要ヲ稿記セトス

梁山郡

梁山郡龜浦ニ此土三月ノ候ハ例年米穀ヲ搭載セル朝鮮

鷄林獎勵業團

釜山支部

船輸漢ノ種而日本米商人ノ買出しニ未レテヨリキモノガ本年ハ其船數至テナリ且日本商人ノ僅カニ官商高田謙助ニ代アル已客主即チ向屋ノ如キ至テ寂莫タリ併シ此地ハ我釜山港ニ近接シ且絶へず日本人ノ往來セル所ナル故家屋ノ構造生活ノ程度ノ如キ一進セシモアリ此地ニミ高唐アリガ日本の模倣セシモノアリ

当地本年農作ハ米豐作トモ大豆作ハ五分作ニ足ラナリ

金海郡

金海ニ米穀取リノ爲況ニ至テ沈靜ナリ唯定期ノ市場ニテ郡邑市民ノ供給米ヲ買求スルニ米商人ノ買出ヲナスヲ見

ナルナリ俾し定期ノ市場ニテ韓人ノ製食品及日本輸入品唐木敷  
ノ如キ賣價ノ盛ニ盛ニテ採採アリ以テ唐木敷ノ賣價ハ韓人  
相持下格ノ為メ賣價ノ減分鈍カノ感ナキアツト昔年未新  
衣ヲ調製スルノ折柄ニハ故テ不捌ヲ見ル患ナシト云フ相持  
ハ廿百四百文ニテ取リセリ

家屋構造生洗ノ程度ハ宜モ異ナリ見ハ然シモ食器具ハ  
如キハ猶々日本陶器ヲ用テテ見ル所近農家ハ或分ノ  
富裕ヲ致シテハ家屋及宜他外柵ノ修繕ヲテテ見ユリ而シテ  
衣服ノ如キハ大抵羊大衣ヲ着用シ居シリ

鷄林獎勵業團

釜山支部

昆原郡

昆原ハ馬山浦ヲ距ルニ里ニテヨリ平野ヲ控ヘ居リ其道路等モ  
平坦ニテ頗ハ運搬便ヲ得タリ故ニ例年此時季ハ辰而米高  
人未ハヨリテ本年ハニ高人ノ之ガ買出シニ着手セリテアリガ  
其價格ノ高貴ナリ居而地相持ノ上ニアルヲ以テ採採ニキ買出シテ  
ヤガハナリ郡邑定期市ノ貨物ノ蒐集殊ニヨリテ人民雜  
荒リ極メ辰而唐木及セ木綿類ノ賣價ハ如前ナリ  
本年ノ農作ハ米ハ充分ノ豊作ヲ見セモ大豆ハ七生ニ足ラ  
ナリ

咸安郡

老郡ハ陸東江ノ南ニ依テ村落ヲ多ク有シ殊ニ郡收附地ニ一條  
後流貫通セルアリテ頗ル灌漑、便ニ富ム故ニ平野多クニテ  
一望懐坐タカ看ア地味膏腴ニテ亦農産物ニ富ムリ本年  
未作ハ豊作ヨ見タモ大豆ノ至リテ降雨ノ多ク復水ヲ免テ  
サレガ五分五厘ノ作戻ナリ故ニ主人ハ言フ本年ノ大豆ハ廉ク各自  
供給ニ過キガハナリ

高坂ハ定期市場ニ各自製衣造布ヲ交易スルコトモ甚  
取リモ見ガハナリ俾此時季ニ我日本ノ米穀四尺出シニ米ハ  
下リテ冬主(肉屋)ノ如キ人馬郡集ルニ際ル雜布ヲ格々モナルニ  
本年ハ米ハ廉ハナリ至テ伏靜ナリ然レモ定期市場ノ如キト至テ

鶏林獎業團

釜山支部

飯沼盛十郎様ナリ

吾川郡

老布ハ慶南南道ノ首都ニテ觀奉使ノ以下ノ屬シ大印存  
ト匹敵セルナリテ数存内ニ七十有五人ハ致ト志一カ五分許リ  
ナリ人知稠密訪人ノ群集極メテヨリキ殊ニ春秋ニハ大市前  
ルアリテハ教苑トシテハ此時ハ八道ノ人民、福慶シテ尤  
モ繁榮盛ラ極ム恰モ現時ハ其秋季ノ大市ニモリガ已ニ其紋  
ニ告ケタリ矣隆々其及ヨ目撃セセモ貨物ノ富足ニ至テ梅々ナリ  
キ其本邦船入品度本数也キ富ハアリタリ茲ニ其市場ノニ賣  
口アリし是ヲ復テ報セシ

一麻布上等一匹價七百文番川及三嘉郡制元ノ係ハリ高直ニ依テ  
一毛織及朝鮮尺布尺代價四百文支那製布尺代價四百文及婦女ノ  
は九ネヲ製成スル用ニテ價マハ依テ

一唐布一匹代價始メ二費五百文ニテ相主手ナリガ中頂積々賣  
コノ早氣ヲ早ハ尙毎百文ノ早騰セリ此ハ充分ノ賣見ル見  
ズテ止ミタリ

一白木一匹代價初メ五百五十文ニ始メテ後期七百文ニ昂騰シテ朝  
鮮産ニテ賣價ハ依テ

一漆木尙朝鮮産者木トテ一尺代價四百文ニ始メテ中頂積々五  
百文ノ昂騰セリ我輸入品ニ係ルモノニテ地ニテハ本手始メテ賣

鶏林獎勵業團

釜山支部

出テ計ニテ韓人ノ商團或ハ婦女ヲ務メ製成スルモノニテ賣見ハ好  
出テナリトス

一石田一箱代價初メ七百文カノ輸入品ニテ後ハテ米田ナリキ石  
田貴直者増加スルモノハ士買ハハ鈍ブルトナシトス

一燐石一箱代價初メ五百文カノ輸入品ニテ仲永高直ノ製成  
品ニ關スルモノハ早氣ノ製成ハ良好ナリ

一粉債車一カノ代價九十文カノ輸入品ニテ世種製ハニナキ  
右粉車此ノ韓人ノ進出ニテ本手ヲ傳出スルヲ知リタリ

一山東仕朝鮮尺一尺代價九十文慶尚道全連ニテ製成スルモノニテ

支那製衣ノ模倣ニシテ多クナリ中ニ社説ノ衣服ヲ製スルモノモテ吉良ニ  
依傍ナリ

右者即チ女大市ニ於テ尤モ吉良ノ依傍ナリ此他諸雜貨物ノ  
吉良有リ凡大惣支那及朝鮮製者亦シノ輸入品ニ至テ希ナリ  
單リトモ人民ノ日本製者ヨリ嗜好スレバ倭白アリ故ニ我雜貨  
物店於此其長クテ買テ販賣スルモノラバ充分ノ吉良ニ見ユ至  
ラナリ

世帯況

本年米作亦尤モ豊作ニシテ志又安ク存セ八俵ノ收穫アリナリ  
大豆ハ陸東以南ノ環流スル部令ニシテ此処ハ河水ニ依傍

鶏林獎勵業團

釜山支部

ノ為メ損失又ハ慢水セシメアリ庫リ四分作ヲ見タリト云フ  
ニ屬スル部令ニ至テ曰ク其リ受テタリト云フ七歩作ナリ

蔬菜ハ晋州特右ノ多ク産出シ他郡ニ得ハ賤ハカリモナリ故ニ其輸  
出先キモ多クテ慶尚南道固城四川昆陽等統官ノ市場ニ  
テハ頗ル好評ヲ得タリ此蔬菜ノ豊凶ニ依リテ秋倉糧ノ  
輸入關係及おス者ナラズ本年ハ其時分時如降雨ヨリ  
シカ又偶々時分多クシテ其地質難固ヤル中ニ流失セシタル  
テアリ其又成長ノ期七八月降雨ナリト云フ例年ニ比シテ今ニ  
作況ナリト云フ

綿糸モ亦晋州特右ノ物産ニテ晋州本係トテ各市場ニ販出ス

ヲ以テ相見ス不登ニテ此輩はニヨリテ大ニ亦傍賃金ノ輸入ニ關係シ  
及ボスニテ本邦ノ事情ハ春來降雨ヨリカクモ養育ノ妨ケナリ  
頃即チ五月下旬ニ至リハ連日、天ノ氣ニ稍々暖化スルノ様相ナリ  
ニテ續テ亦降雨ナキ為メ、育分成長ヲ大ニ促スルニ由リ、種花ノ實  
毒ニ凡葉ハ免ズカニ多クニ生ズルニ比シテ七歩作ト云ヘリ

貨幣、流通

各地ニ一般ニ貨幣ノ流通セハモ、韓米ナリ我國ノ貨幣ニ  
係ルハ日銀貨ノ流通セハモ至テ僅ナリ、又銀貨下韓  
米ナリ、大抵、辰布地ニ交換スル、韓米相場、比較的  
ハ米ナリ、故ニ官倉者ニテ交換スルニ、公定相場ニテ割ラセテ、

鶏林獎勵業團

釜山支部

宣道平野

各地ノ為長ニ定期市ノ外更ニ高邑ノ所ハ、ヨリヤナリ、市内ニ  
ノテ、ラ、張ルハ、モ、何モ朝鮮履及朝鮮烟草ヲ密商シ、  
去信、右、地、ハ、莫ク、モ、ナ、カ、随、分、賣、口、好、切、ナ、リ、ト、言、フ

内屋

釜山(内屋)ニ於テ、市ノ諸方、莫ク、其ノ本係、内屋ニヤス  
然レ、民、ヨリ、日本米商人、為メ、設、ク、タ、モ、ナ、リ、本、年、ハ、致、シ、ト、其、時  
キ、ニ、降、ラ、シ、米、必、ス、ノ、以、出、シ、米、チ、ア、ル、ナ、リ、亦、内、屋、米、ノ、於、テ、モ  
其、相、場、上、取、リ、所、ガ、利、ヨリ、亦、其、モ、同、出、シ、タ、ナ、リ、故、リ、ト  
馬、尼、韓、人、積、シ、其、情、ヲ、精、通、セ、ル、ト、本、年、日、本、米、賣、作、ナ、リ



設ク所アリトテ農民ニニ稱 獲ルハ所アリカク其出ルセル様  
様ニ趣キリト云フ

運送

古地ニ使物ヲ運送スルニ皆河水便ヲ得ル冷事ト南ニ其所  
ヨレテ陸高障カニ三丁ノ阻キ不水勢盛ニシテ每橋ノ航運自  
在ナ世下ニ本年ノ降雨ナキ為メ水量減サシ大船ハ勿論ナ船  
ノ航運危險ナル所多シ所船ニヨリテ半計ヲ得ルモノ陸運難  
ノ換極アリ

農業

本年米作ハ充分ノ豊作極メタルが大巨ハ冷東南ノ況ナリ

鶏林獎勵業圖

釜山支部

圃ヲスヨミシバ河水低張極ノ為メ希希流矢セシ獲ル  
所漸白歩ニ阻キナリ

玄凡郡

古地ニ田野開ケ殊ニ二ノ坑ニ平野ノ中央ヲ貫ク水路既舊  
ノ使ニ事々故ニ本年ノ如キ降雨多キナリ河水低張ノ患ヲ免  
カサト馬氏侯向ニ其之ヲ平ノ在國政セル肥料ヲ流セルヲ以テ河  
岸ノ殊ニ出来栄ノ無ク及生殖トセテ人儀ノ牧獲アリタリト  
テ大巨ハ重モ山圃ニ植合ケルモノ地味肥腹ニ事ニ充  
テキリ及テ牧獲ノ候降雨ナキカモ割合ニ其片リ大キリ他  
ニ比シバ二割市ノ増收ヲ見メリト云フ

者地モ各冷東以北ハヨシハ遠カキバ貨物ヲ運搬スルハ便利ナリ地ナリ

大牟郡

高沢

同下其秋季ナリ大市ナリ高沢既ハ盛ナリ市場ハ南向車  
リ西門通リニ至リ長サナシ全平横ホ之倭ハリ雜貨在アリ  
販在アリ拵物在アリ筆墨在アリ陶器在アリ木向物在アリ  
朝鮮人ノ飾器具ヲ賣リトナリ各々其區劃ヲ設ケテ購  
買ノ雜器ヲ購テシム集會セル爲人ハ區ヨリ来リテカ就  
中京城人ヲ多ク見ルハ如シ外國人ハ在リテハ本邦商人勝出

鷄林獎勵業團

釜山支部

昔見ニ氏アト布巴カ者呼例年春秋二期ニ用布セルモノガ  
秋季々春季ヨリモ買求者多シ一俸轉々價例上テ季末  
ニ必不新衣ヲ調製セシ且其日用巾帯品ハ大抵此大市ヲ以テ買  
求スルモノナリ然レテ季々未だ韓人ノ米穀出賣ナリト拍子訪方  
引金録ニ載ニテ季々ハモリノ味年ヨリ一層買出多キ事ハ如シ  
現ニ大牟大市因重米未だ是迄一日百五十兩ノ賣上ケテ尙得先  
モアラサレガ本ナキハ百五十兩ハマカ此由中賣上ケテ高ク見ル事  
アリナリ其稀布者ト云フ陣列セル高直ノ重モノ日傳韓  
三國製衣品ナリ此他獨逸製衣品輸入バ僅カニ針數ニ區  
別ナリ自國製衣品賣出勿論支那絹布類賣出亦盛ニ好望



ナリテハカクシキ我高島輸入アリモハ金中作債系石油購入商  
若者難貨品ナカシテ買取願ハ良好ナリト云テ茲ニ其我輸入品  
又ニ述ベシ

一 金中輸入セシモノヨリ鷹ノ印ナシ其數ハ千匹之ヲ所年ノ大  
半ニ比スルニ致ストシ千匹金ノ物ナリ居而地轉ニ相場ノ下流シ  
クシテ早ニ韓國内地ニ入リ或ハ金價類ヲ早騰セムガハガサハ  
元金ノ白銀出サキナルニヨリ一ト其品位又等々相異ニ流シ使用者  
持サセトシ三ツモアリ相場一匹計費七百文

一 石中輸入ニ千箱ニ達セリ所年ノ比シ五百箱ノ増加ナリ石  
中消費者ノ増加スル結果トシ代價計費四百五十文

鶏林藥業團

釜山支部

一 新債系ハ毎年増加セリ傾向アリ本年致スト拾金ニ塊ニ  
達セリ仿債系ヲ以テ本係ヲ儲リ出ス事ヲ知リシ結果ナリ而  
シテ其種類ハナリテ右塩世手左塩賣ルハ好調ナリ代價  
八百五十文

一 燐寸輸入ニ千箱ニ達セリ年々増加スル傾向アリ而シテ其種  
類ハ仲永高店ノ製不造ニ係ル鹿印ナリ代價計費五百  
文

一 他國若者難貨品輸入セリ禱高ノ手ニヨリテ及賣ルモノヨリ  
而シテ禱高ノ手ニヨリ及賣ルモノハ價格ノ高貴ナリ以テ買手ナ  
リト云ハ本邦商人膝中先ノ及賣ルセルモノ貴ニ好調ナリカ如





新宮郡

新宮郡の畑地を以て水田を以て其は谷白の供給米ニ至るは  
不十分畑地を重き山圃にて丘陵を以て其は地味既上にて畑  
ハ僅かに帯び本寺、大豆ハ最和降雨多かりし為又其の  
生育悪かりしが七月下旬より天候快晴となり、稲を後述せし如  
様様々まじり、後熟期迄降雨多かりし為又其結果大に  
宜しかりし比し、九月作りに見たり  
高尾の年米に匹敵し、為定期に市場頗る雑者極なり  
本係金や、如キ高尾は、好望なりとす

永川郡

鶏林獎勵業團

釜山支部

永川郡の四方山を以て田後を以て餘産ニ充て、青アリ永川  
大十段、母更抗セルルヲ以て、稻の平地ヲ以て見ル、田畑可なり  
にて、農産物に富み、本年作りに米大豆並に、收穫  
アリたりとす

慶州郡

慶州郡の畑地を以て、郡境ヲ稍々、遠かに、水田ノ多かり見ル  
本年作りに米、大豆、收穫ヲ見たり、大豆ハ降雨多かりし  
為、成長が、悪ク、免ヌカ、所して、結果大に、宜し、今年に比し  
八分作りに得たりとす

老地ニ年々、居而米、米、穀、買出たり、米、米、故に、



高民モ精々之殿ヒニ録取リトテ買出コトモノヨクシ生ルニ本年ハ  
 尾留未高ノ買出コトモサナカキ韓民ハ矢張り其ノ買出コト  
 ナモノアリ買出所ノ者々及ビ大豆トモ其相博ノ不ハ  
 合ノ漸ク郡邑市民ノ需用ニ供スル過キガレハ大豆ハ其ノ元  
 配定メテ日ノ數百石ノ買入コトモアリ而シテ之ヲヨリ新  
 寧ノ水川地方ヨリ人集ノ府依リ運搬スモノナリ

蔚山郡

蔚山郡本々作坂ノ末ハ其ノ各官附近ハ河水已増長陸ノ為メ  
 堤防破壊シ五千坪余ノ田地ヲ荒蕪ニ屬セシメ冬及テ被  
 害サシカス其他ニ至リテハ郡内ニ是レ作坂ノ大豆ハ其ノ荒

鷄林獎勵業團

釜山支部

此ノ部令ハ降雨ノ考メ候夫又長水セシテアリカハ義令ノ按  
 據ヨ免シ不山圃ニ至リテ地味沈下質たヨシテ其收熟期  
 ニ至リ降雨ヨリシコ拘ハ不割合ノ好果ヲ得テ八分作ヲ見  
 ナリト云フ

各地此時年々本領居留高民ノ輸侵スル所ナリガ本年ハ  
 至ニサナカキ皆血下モ言フ所ナリ已ニ同田賦本領氏大豆買  
 出コトモ出候セシメ其價ノ高貴ナリニ致馬キ年々收メテ序  
 シト云フ

諸種ノ年見

租税製造物大ヲ矯メヨ

日韓貿易の遠く以前に娘マシト馬民公生通高港の南中彼が  
事物の交易を以て得せよと今の際に在る年亦一アリ南米我  
邦の板轄セルも其數の増加し金山港の航キ昂々日本  
の天地の形造り貿易の盛んなる外國人より一私事をも是に  
因家、為メ加ふるや現象ナリ年々本邦に貨物の輸入増加  
スル者、韓民の馬用増加せよと一級人民相心見スや我邦  
まはり下流民事其の及メ裁テ其裏面を考メ數不けり  
種畜の我事情踴躍スル奈見スや貨物輸入の増加  
セシキ物産の好男ヲ知ラカレテ、詩書にヒリ一度ヒ之ヲ用ヒ  
キ其の貨物の粗製一私事ヲ喫し再び手ヲ下ガカレト至ル  
粗製

鶏林獎勵業團

釜山支部

偏造の弊大なるを以テ抑モ粗製を阻造、抑大に本邦輸出  
品之面與ミテ大資本家、後書セル年々其の如キに至リテモ  
其弊今一絶たズ、反シヤ朝鮮地方に出現セテ産業スルに及  
本家或無知ナリ者、其の無理ナルト馬民後數シヤキテ中  
國より本邦無知資本家、為シ能ハレテ所ナク如何トモ不能  
ス下馬民、其由自前、利ス我財障アリカラス一昨、多利ヲ為メ  
斯レ愚所以テ百千大計ヲ失シ除テテ廠ニガ正サシ盛ナ  
赴キテアル日韓貿易の地ヲ拂ハシムルに至ル、獨リ在る日  
胞、不利ナルに己も國家、為メ大に歎スベキモノアリ、野老  
人の用事ヲセトス、信事と徳義ヲ以テ交リテ、却テ疑念



抱き或ハ甘言ヲ以テ保衛ニ望ミタルト 昭フルヤハ如斯ク我  
 過造臣ヨクテ彼コト欺ク彼ノ我ニ信後スルモノアヤ 頑固ニ  
 守テ守テ何事モ墨株的ニ韓人ニテ一々其悪感ヲ抱キナ  
 ハ假令ニ誠意正心ヲ以テ之ヲ解説ストモモ亦容易ク信  
 節セラルヤ如何セシ今ヤ本邦市民信用得サレ地ニ墜上  
 至ル所ニ不手ノ聲有リ聞カレシ實際本邦ガ流行中未教  
 出テテ表スル日韓相携均衡ヲ有ルカニヨリタルトモモ  
 抑モ其彼方ノ固情ヲ知ラザル致ス所多クカト之ニ説クニ信  
 實ニ可成下重ナル請ヲ以テセトモ彼ノ容易ニ應ズル換極  
 ホキ鴨鳴等々年々轉固ニ在リテ彼方交通ノ先件果遂

鶏林獎勵業團

釜山支部

此其ノ是ハ山皇ノ歎スガキ、至リテ高ヤ有モ國者ヲ求ル山ノ  
 海ニ歸キ何處迄モ義侠的ナル日本人父老は欲セシモノ一  
 人ナリ和氣家指造ノ契大々矯正スル勉メスハヤヤ年ノ遠恨  
 長城ヲ逸スル感ヲナキに至ルカ

ニ 居留米商人ノ一致ヲ望ム

居留米商人ノ厚リ轉地ニナリ米穀買出シラズシ皆各自其  
 利ニシテ勉メシ在リ故ニ各其先キテ争フテ其業本は厚ク  
 得テトモモ亦仕ララ得サレリトモモ其之ヲ買フニモヤヤ或  
 者其買ハク傍者ヲ不レ得サレリ最ト低價ナル便ヲ以テ買出  
 ヲナスアリテ其相携一定スル各自利セトスルモノ如斯ク高價



三其引合ヲ見ハシキヤト疑ハシクアリ昂ク利己主義ヲ起ル茲  
 年倍買トモ年費リカニ利テニアリテ彼ニ利セシム  
 ハモノナリ其山堂ノ之ヲ尤ムヤ取リト爲シ日韓貿易ノ上カモ重  
 事大振出田百五ノ以テ釜山ノ盛衰ヲ左右スル如斯故争  
 買ヲナシ如斯故争ヲ止スル所謂一時ノ奇利ヲ得ト欲シテ百  
 年大計ヲ失スルモノナリ何トモカニ未價騰貴セシ片ニ差セリ  
 其故夫ヲ見出サカシ凡己未價下廉シテ今ハ如キニ至テハ韓人  
 夜思ナク亦容易ニ心ヲ動サザルナリ人ノ支離滅裂ハ快シ  
 テ其ノツキ現象ニテマカサリ抗南カニ利セトテ却テ彼ノ  
 足掛ケナク男也女其ノ下言フマシ故余ハ爲ニ居る者

鶏林獎勵業團

釜山支部

弟一致ヲ圖ル者ニ他令會ナクテ他倫ノ規約ニテカ取  
 備ヲ嚴明シ以テ加正ニ相誡メ相勵ミ以テ百十年ノ大計ヲ  
 語ラシ旅所以テ其節ヲ豫法ヲ希フモノナリ

右之通及報告便也

視察員

明治四十二年一月十三日

田川士喜太郎

鶏林獎勵業團釜山支部長

宮本置殿

